

# 青森の民俗資料や文献資史料など 文化資源の発見と活用に関する「青森モデル」の構築と展開

山田 巖子<sup>1</sup>  
原 克昭<sup>1</sup>

荷見守義<sup>1</sup>・中村武司<sup>1</sup>・亀谷 学<sup>1</sup>・尾崎名津子<sup>1</sup>  
新永悠人<sup>1</sup>・関根達人<sup>1</sup>・片岡太郎<sup>1</sup>・葉山 茂<sup>1</sup>  
佐々木あすか<sup>1</sup>・植木久行<sup>2</sup>・竹村俊哉<sup>3</sup>・瀧本壽史<sup>4</sup>  
小池淳一<sup>5</sup>・小山隆秀<sup>6</sup>・山崎杏由<sup>7</sup>・中田書矢<sup>8</sup>  
渡辺麻里子<sup>9</sup>・武井紀子<sup>10</sup>・福井敏隆<sup>11</sup>・松井 太<sup>12</sup>  
木村純二<sup>13</sup>・川瀬 卓<sup>14</sup>・南 修平<sup>15</sup>・北原かな子<sup>16</sup>  
木村隆博<sup>17</sup>・竹内勇造<sup>18</sup>・庄司輝昭<sup>19</sup>・多田健司<sup>20</sup>  
石山晃子<sup>21</sup>・小島孝夫<sup>22</sup>・工藤 司<sup>23</sup>・仁平政人<sup>24</sup>  
伊東 信<sup>25</sup>・藤林美帆<sup>26</sup>・古川淳一<sup>27</sup>

## はじめに

本事業の趣旨は、青森県内に豊富に存在する民俗資料や文献資史料などの文化資源を調査し、内容を研究分析し、その活用を通じて、地域に貢献することにある。このとりくみは、2014年4月の地域未来創生センター設立以来、8年にわたって継続してきたが、その過程において、地域の理解と協力を得ながら徐々に大きく発展させてきた。人文社会科学部内の分野を超えた教員の共同研究を軸として、学内外の研究者や地域の関係諸機関および外部の関係諸機関と連携し、研究をより複合発展的かつ広域的に発展させることをめざしている。

## 1. 背景と目的

青森県内には、民俗資料や文献資史料が豊富に遺されている。本事業は、未だ十分な調査がなされていないこれらの資史料群を調査研究しその学術的意義を解明するとともに、地域の文化資源として活用することによって地域の発展に寄与することをめざしている。その主たる目的と意義は、以下の通りである。

- ①青森県内に豊富に存在する民俗資料や文献資史料などの文化資源を調査し、内容を研究分析し、その活用や展開をはかる。
- ②人文社会科学部内の分野を超えた教員の共同研究を軸として、学内や学外の研究者や地域の関係諸機関、外部の関係諸機関と連携し、研究をより複合発展的、かつ広域的に発展させる。
- ③コロナ禍で調査や研究成果の公開に課題を抱えた、教育連携研究を結んだ国立歴史民俗博物館や名古屋大学、あるいは、青森県立郷土館や、弘前市立博物館などの研究機関や自治体と組織間の研究連携を強化し、文化資源調査を核とした枠組みである「青森モデル」を展開する。
- ④地域の人々が、地域の文化についての理解を深め、世界から見た地域を学ぶ機会としての学びの場を提

<sup>1</sup> 弘前大学人文社会科学部 <sup>2</sup> 弘前大学名誉教授・弘前大学人文社会科学部客員研究員 <sup>3</sup> 弘前大学人文社会科学部客員研究員

<sup>4</sup> 弘前大学教育学部客員研究員 <sup>5</sup> 国立歴史民俗博物館 <sup>6</sup> 青森県立郷土館 <sup>7</sup> 野辺地町教育委員会 <sup>8</sup> 鯉ヶ沢町教育委員会 <sup>9</sup> 大正大学

<sup>10</sup> 日本大学 <sup>11</sup> 前弘前市立弘前図書館 <sup>12</sup> 大阪大学 <sup>13</sup> 東北学院大学 <sup>14</sup> 白百合女子大学 <sup>15</sup> 専修大学 <sup>16</sup> 青森中央学院大学 <sup>17</sup> 東奥義塾高等学校

<sup>18</sup> 弘前市立弘前図書館 <sup>19</sup> 弘前市教育委員会 <sup>20</sup> 中央公民館 <sup>21</sup> 北のまほろば歴史館 <sup>22</sup> 成城大学 <sup>23</sup> 三沢市教育委員会 <sup>24</sup> 東北大学

<sup>25</sup> 深浦町教育委員会 <sup>26</sup> 黒石高校 <sup>27</sup> 青森県県民生活文化課・文化 NPO 活動支援グループ主幹専門員

供すべく、地域の文化財に関する情報提供を行うフォーラムや調査報告会を開催する。

- ⑤地域住民との連携強化のために、研究成果を地域住民、学生と共有し、効果的な発信方法を考える。
- ⑥民俗資料調査では弘前大学の学生も協働し、文化財の扱い方や文化財の意義を実際に学ばせる。学習成果を効果的に発信する方法を地域の人々とともに考える経験を積む。
- ⑦文献資料調査には弘前大学の学生も協働し、文化財の扱い方や文化財の意義を実際に学ばせる。その際、地域住民と協働し、地域の諸課題に取り組む経験を積む教育の場として活用する。
- ⑧藩校資料調査では、東奥義塾高校において特別講義や生徒との協働調査を実施し、深浦円覚寺調査では県内高校との研究協力を発展させ、新しい「高大連携」の構築を図る。

新たな観光資源の開拓が重要課題である青森県内には、貴重な民俗関係の文化財や文献資料が数多く伝えられている。それらを新たな文化資源として発掘・再発見し、さらに高付加価値化することが求められる。そのためには、調査への学生や市民の協働調査参加という「青森モデル」の推進、フォーラム・報告書・市民講座による研究成果の地域還元と情報共有など、青森県の歴史文化振興に文献資料調査という面から貢献するとともに、県外に向けては国内でも貴重な文化資源群の存在の発信に努めてゆく必要がある。

## 2. 実施内容とその成果

この1年間のとりくみについて、大きく民俗資料調査と文献資料調査の2つの部門に分けて報告する。

### 【1】民俗資料調査

#### ① 小川原湖民俗博物館旧蔵資料調査

小川原湖民俗博物館旧蔵資料のうち、映像、写真資料のデータ化を進めた。映像資料については、VHS、DVDとも動作確認を行い、修復が必要なものを選び出し、リスト化した。また写真資料の著作権について調査を行い、著作権保持者が確認できた「野坂千之助撮影」アルバム画像一式は、資料使用許可について人文社会科学部と著作権者で書類を交わし、今後の利用許可を得たのち、デジタル化を行った。

10月10日、第71回日本民俗学会例会において山田巖子「旧小川原湖民俗博物館の映像資料」と題する発表を行い、その特徴と意義について論じた。なお、口頭発表の内容は教育研究連携を結んでいる国立歴史民俗博物館の研究報告書に投稿予定である。

新型コロナウイルスの感染状況から、三沢市所蔵の民具と情報カードの照合作業は来年度に持ち越した。

#### ② 野辺地町の民俗調査と歴史民俗資料館「民俗展示」リニューアル案の作成

野辺地町教育委員会からの受託研究として、民俗調査と野辺地町歴史民俗資料館「民俗展示」のリニューアル案を作成した。学生の民俗学実習・民俗誌実習と連動し、民俗学の山田巖子と博物館学の葉山茂准教授が指導にあたった。

8月28日に野辺地町歴史民俗資料館の山崎杏由氏と打ち合わせ、民具の選別、下準備、巡見の下見を行った。新型コロナウイルスの蔓延状況に伴い、9月に予定していた民俗学実習を10月1日から3日に延期した。10月1日から3日まで、現在の展示資料の撤去作業を行い、リニューアル展示のレイアウトを確認した。また、班ごとに分かれて、聞き取り調査を実施した。実習の合宿以外に、10月19日には野辺地町主催「野辺地げんき講座」との共同企画として、講座参加者から聞き取りを行った。

集団での調査以外に、山菜採り、盆、キノコ採り、旧家公開など、行事の機会には、3～4名程度で撮影、聞き取りを行った。また漁業経験者や葬儀社など、生業ごとの聞き取りも行った。これらの調査成果は展示解説などに活用する予定である。

#### ③ 北東北の寺院と民間巫女、民間信仰の調査

北東北の寺院と民間巫女の調査は新型コロナウイルスの状況を鑑みて中止した。

五所川原市在住の在野の研究者、佐々木達司氏の遺稿「青森県の俗信辞典（仮称）」を弘前大学人文社会科学部と教育・研究連携を締結している国立歴史民俗博物館の小池淳一教授と協同して、学生たちと評

典原稿の出典にあたり、逆引き作業、校正作業を行い、2021年3月20日に『青森県俗信辞典』（人間文化研究機構広域連携型基幹プロジェクト「日本列島における地域変貌・災害からの地域文化の再構築」刊）を刊行した。本年度は残された課題、出典の確認ができていなかった部分を関係団体に確認し、増補改訂作業を行った。

また佐々木氏の音声データについては5月29日に小池淳一教授とともに佐々木氏のご息のもとを訪問し、残された音声データの種類と総量を確認した。10月30日の日本口承文芸学会第80回例会シンポジウム「昔話の録音音源の保存と活用」では小池氏が「昔話録音音源の処理と発信」というタイトルで資料の紹介を行った。



野辺地元気講座での聞き取り



野辺地歴史民俗資料館での実習風景

## 【2】文献資料調査

### ④ 深浦円覚寺古典籍資料調査の成果報告会開催および報告書の刊行

本年度は、深浦円覚寺聖教の県重宝指摘を記念して、第4回目となるフォーラムが2021年9月26日（日）にオンライン開催された。詳細は、本年度末に刊行予定の調査報告書第四集をご参照いただきたい。

### ⑤ 旧弘前藩藩校「稽古館」資料調査の報告会開催および研究集録の刊行

本年度の東奥義塾図書館所蔵和古書調査の成果を中心に、今回の藩校資料調査報告会は、2021年11月21日（日）13:00～16:00、弘前大学人文社会科学部多目的ホールにおいて実施した。2014年度から数えて8回目の開催となるが、昨年度と同様に今年度も感染防止対策として定員制を設けて会場でライブビューイングを実施するとともに、オンラインによるライブ配信を行った。

人文社会科学部飯島裕胤学部長による開会の辞につづき、東奥義塾高等学校塾長コルドウェル ジョン先生よりご挨拶いただいた。つづいて第一部では、講師にお招きした早稲田大学名誉教授・土田健次郎先生による特別講演、そして第二部では立ち上げ当初より調査に携わってきた植木久行名誉教授・大正大学文学部渡辺麻里子教授より調査の経緯および蔵書目録の総体についての報告、第三部では調査メンバーによる研究報告を行った。亀谷教員の総司会に沿って、以下の通り特別講演ならびに報告がなされた。

#### □第一部 特別講演

・江戸時代の朱子学と古学

特別講師 早稲田大学名誉教授 土田 健次郎 先生

#### □第二部・研究報告①

・弘前藩藩校稽古館旧蔵資料調査の経緯と成果——未来へ向けて——

大正大学文学部教授・前弘前大学人文社会科学部教授 渡辺 麻里子

・弘前藩校稽古館の蔵書——蔵書目録と古典籍調査を踏まえて——

弘前大学名誉教授・人文社会科学部客員研究員 植木 久行

## □第三部・研究報告②

- ・東奥義塾高校図書館蔵『遭厄日本紀事』について 人文社会科学研究科修士課程 楠美 佳奈
- ・東奥義塾高校図書館蔵 狂言小謡本について 人文社会科学部助教 中野 顕正
- ・東奥義塾高校図書館所蔵日本思想史関係典籍群について 人文社会科学部准教授 原 克昭
- ・コメント・総括 日本大学文理学部准教授・前弘前大学人文社会科学部准教授 武井 紀子

第一部の特別講演では、宋代を中心とする中国思想・日本江戸思想を専門とする早稲田大学名誉教授の土田健次郎先生より、朱子学と古学という観点から弘前藩を含む江戸儒学の学問世界について懇切にお話いただいた。江戸時代の思想史環境の流れの中から弘前藩の特質性をあぶりだしてゆく講演内容は、藩校資料を基調とする本調査チームにとってきわめて重要な視座を与えてくださったものであり、調査研究の本質的意義を改めて考える契機となった。

第二部では、まず大正大学文学部・渡辺麻里子教授より、東奥義塾図書館における調査の始動から現在に至る経緯と成果を回顧しつつ今後の展望について報告された。つづいて、植木名誉教授より、蔵書目録に即して具体的な蔵書の内実とその総体について詳細な報告がなされた。ともに、ミニ講演の形式をとる研究報告としたことで、学内の中途参加および新規メンバーへの事業継承という点においても効果的であった。

第三部では、例年通り資料調査報告を行った。大学院生の楠美氏は、幕末期のゴローニン事件の顛末を翻訳した『遭厄日本紀事』を採りあげ、東奥義塾本の特徴と内容について同時代の年表と併せて検証した。中野教員は、東奥義塾図書館の蔵書としては稀有な小謡本を紹介し、内容および伝来の経緯について専門的に考察するとともに、津軽地域における芸能関係資料の意義と可能性について指摘した。原は、前年度に引き続き山鹿素行関係資料群とその研究現況をもとに、その集散状況から他機関の資料との関係性について報告した。

そして、以上の特別講演および研究報告を承けて、昨年度まで本調査チームを率いてきた日本大学文理学部・武井紀子准教授よりコメントが述べられた。特別講演と各研究報告の要点をまとめつつ、本調査研究の意義について総括して締めくくりとした。最後に、荷見教員による閉会の辞を原が代読し報告会を終了した。本年度の報告会内容および資料調査の研究成果の詳細については、本年度末に刊行予定の『東奥義塾高等学校所蔵 旧弘前藩古典籍調査集録』第八集をご覧いただければ幸甚である。

なお、植木名誉教授を代表とする科研基盤 (C)「弘前藩藩校「稽古館」旧蔵本の悉皆調査による近世津軽における知識集成の解明」としては本年度が最終年度となるが、これまで調査を牽引してきたメンバーと新規参加の教員が一堂に会する貴重な場となったことは、本事業にとって有意義な機会であったといえよう。

## 3. お わ り に

贅言を要するまでもなく、青森・津軽という地域は歴史ある土地であり、まだまだ数多くの民俗資料や文献資史料が遺されている。しかし、その存在に気づかないでいると、瞬く間に廃棄され失われてしまう。本事業の責務は、有形無形を問わず、青森・津軽に眠る資史料を発掘し、現在によみがえらせ、未来へとつなげてゆくことにある。

とはいえ、文化資源は研究者が活用するだけでなく、広く地域住民にもよく知ってもらい深く関わってもらうことも重要な課題である。地域住民と学内外の研究者が連携を強化し、研究成果を共有し、住民の地域文化への理解を深めていくために、本事業は努力を続けてゆく所存である。ひきつづき、みなさまの暖かいご支援とご協力をお願い申し上げたい。

2021年

11月21日 日

13:00~16:00 (予定) 開場12:30

弘前大学 人文社会科学部

4階 多目的ホール【定員40名 先着順】  
(入場無料・事前申し込み不要)

## Zoomによるオンライン同時配信

オンライン視聴参加を希望される方は、Eメールよりお申し込みください  
【11月19日(金)まで】

弘前藩の藩校「稽古館」が所蔵していた古典籍資料は、現在、東奥義塾高校や弘前市立弘前図書館に保存されています。これらは江戸時代の津軽地域における人々の「知の体系」を解き明かすための貴重な文化遺産です。弘前大学では、2014年から調査研究を行い、毎年成果発表会を開催してきました。今年度は、特別講師として早稲田大学名誉教授の土田健次郎先生をお招きし、弘前藩の学問を含む江戸時代の学問世界についてご講演いただきます。また調査メンバーが調査の経緯や最新の成果をそれぞれの立場から報告いたします。

津軽の歴史・文化に関心をお持ちの方は、どなたでもご参加ください。一人でも多くの方のご参加をお待ちしております。

### ■プログラム

13:00 開会 開会の辞 ご挨拶

#### 第一部

13:10 特別講演  
江戸時代の朱子学と古学



特別講師 早稲田大学 名誉教授

土田 健次郎 先生

宋代を中心とする中国思想・日本江戸思想がご専門の先生にお越しいただき、朱子学という観点から、弘前藩を含む江戸時代の学問世界についてご講演いただきます。

#### 第二部

14:20 研究報告①

#### 第三部

15:10 研究報告② コメント・総括

16:00 閉会 閉会の辞

■主催 弘前大学人文社会科学部 弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター

■共催 東奥義塾高等学校 ■後援 弘前市 東奥日報社 陸奥新報社

【**科研費**】 ※本報告会は、科研基盤(C)「弘前藩藩校「稽古館」旧蔵本の悉皆調査による近世津軽における知識集積の解明」の研究成果による(代表:植木久行)

※令和3年度大学コンソーシアム学都ひろさき活性化支援事業費補助金対象事業

【申し込み・お問い合わせ】 弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター(古川・原)

住所:〒036-8560 弘前市文京町1番地 電話:0172-39-3198(直) 平日10:15~17:00 メール:lirrc@hirosaki-u.ac.jp(古川) haraki@hirosaki-u.ac.jp(原)

弘前藩藩校資料調査研究会ウェブサイト <http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/hankou/> 弘前藩藩校資料調査研究会 **検索**

地域未来創生センター 弘前大学人文社会科学部 弘前藩藩校資料調査研究会

# 二〇二二年度 旧弘前藩藩校稽古館 資料調査報告会



II-3

青森の民俗資料や文献資料など文化資源の発見と活用に関する「青森モデル」の構築と展開

## タイムスケジュール

- 13:00 開会 開会の辞 弘前大学人文社会科学部 学部長 飯島 裕胤  
ご挨拶 東奥義塾高等学校 塾長 コルドウェル ジョン
- 13:10 第一部 特別講演(60分) 江戸時代の朱子学と古学  
特別講師 早稲田大学 名誉教授 土田 健次郎 先生
- 14:10~14:20 休憩(10分)
- 14:20 第二部 研究報告①(50分) 渡辺 麻里子 / 植木 久行
- 15:10 第三部 研究報告②(35分) 楠美 佳奈 / 中野 顕正 / 原 克昭
- 15:45 コメント・総括 武井 紀子
- 16:00 閉会 閉会の辞 弘前大学人文社会科学部 副学部長 荷見 守義

## 第一部 特別講演 講師紹介



つち だ けん じ ろ う  
**土田 健次郎** 先生

早稲田大学 名誉教授

1949年東京都生まれ。早稲田大学名誉教授、博士(文学)。日本中国学会理事長・日本思想史学会会長・日本儒教会会長など歴任。ご専門は、宋代を中心とする中国思想・日本江戸思想。主な著書に、『道学の形成』(創文社)、『儒教入門』(東京大学出版会)、『「日常」の回復—江戸儒学の「仁」の思想に学ぶ』(早稲田大学出版会)、『江戸の朱子学』(筑摩書房)、訳注書に、朱熹『論語集注』1~3(平凡社東洋文庫)、山鹿素行『聖教要録・配所残筆』(講談社学術文庫)など。

## 第二部 研究報告① 題目・発表者

### ■弘前藩藩校稽古館旧蔵資料調査の経緯と成果 —未来へ向けて—

大正大学文学部 教授・前 弘前大学人文社会科学部 教授(日本古典文学)  
渡辺 麻里子

### ■弘前藩藩校稽古館の蔵書 —蔵書目録と古典籍調査を踏まえて—

弘前大学 名誉教授・人文社会科学部 客員研究員(中国古典文学)  
植木 久行

## 第三部 研究報告② 題目・発表者

### ■東奥義塾高校図書館蔵『遭厄日本紀事』について

弘前大学大学院人文社会科学部 修士課程(日本史)  
楠美 佳奈

### ■東奥義塾高校図書館蔵 狂言小謡本について

弘前大学人文社会科学部 助教(日本古典文学) 中野 顕正

### ■東奥義塾高校図書館所蔵 日本思想史関係典籍群について

弘前大学人文社会科学部 准教授(日本思想史) 原 克昭

### ■コメント・総括

日本大学文理学部 准教授・前 弘前大学人文社会科学部 准教授(日本史)  
武井 紀子

## オンライン参加申し込み方法 (事前予約制)

参加をご希望する方は、Eメールでお申し込みください。

### ■ZoomアプリによるWeb視聴参加

【申込期限:11月19日(金)まで】

Eメールよりお申し込みください。

お申し込みいただいたメールアドレスに、Zoom視聴用URLをお知らせいたします。各自Zoomアプリ(無料)をダウンロードしてください。

参加者のみなさまはカメラオフで参加可能です。

なお、開催数日前になってもお知らせメールが届かない場合はご連絡ください。

## 弘前大会場での来場参加

人文社会科学部4階・多目的ホール・定員40名・先着順  
入場無料・事前申し込み不要

会場にお越しになる場合には事前の申し込みは不要ですが、新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、会場での参加の際は必ずマスク着用の上、密な状況避けるため、指定された席に着かれるようお願いいたします。また、当日体調の優れない方は、ご無理をなされないようお願いいたします。

なお、状況次第では、Zoomによるオンライン配信のみとなる場合もあります。その点もご承知おきください。

### ■お問い合わせ

弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター (古川・原)

〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地

電話:0172-39-3198(直通) 平日10:15~17:00

Eメール:irrc@hirosaki-u.ac.jp(古川)

harak@hirosaki-u.ac.jp(原)